

世界が進むチカラになる。



経済調査

グラフで見る関西経済 (2026年1月)

2026年1月14日

調査部 主任研究員

塚田裕昭

今月の景気判断～横ばい圏で推移している

【今月のポイント】

- 関西経済は、横ばい圏で推移している
- 10月の生産は2カ月連続で前月比プラスとなつたが、均してみると弱含んでいる
- 11月の実質輸出は5カ月ぶりに前月比でプラスとなつた。均してみると横ばい圏で推移している
- 設備投資は、非製造業を中心に大幅な伸びが計画されている
- 小売販売額は名目ベースでの増加が続いている。11月は実質ベースでも3カ月連続でプラスとなつた
- 10月の賃金(大阪)は、名目ではプラスが続いている。実質では3カ月連続でマイナスとなつた

項目	現状
景気全般	横ばい圏で推移している
生産	弱含んでいる
輸出	横ばい圏で推移している
設備投資	増加している
雇用	持ち直しの動きがみられる
賃金	持ち直している
個人消費	持ち直しの動きがみられる
住宅投資	横ばい圏で推移している
公共投資	例年並みの水準となっている

生産

10月の鉱工業生産(関西)は前月比+1.8%と2カ月連続でプラスとなったが、均してみると弱含んでいる。汎用・生産用・業務用機械、電子部品・デバイスは減少したが、電気機械、化学が増加した。先行きは、トランプ関税等による下押し圧力により弱含みが続くと見込まれる。

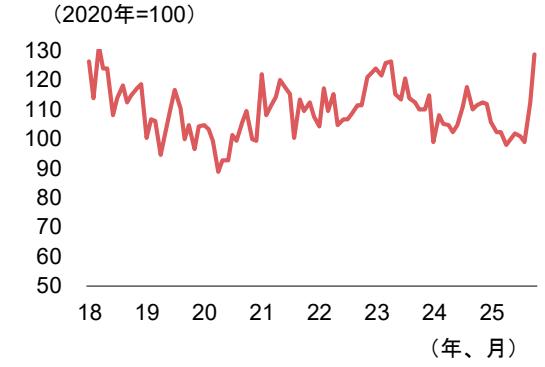
鉱工業生産指数



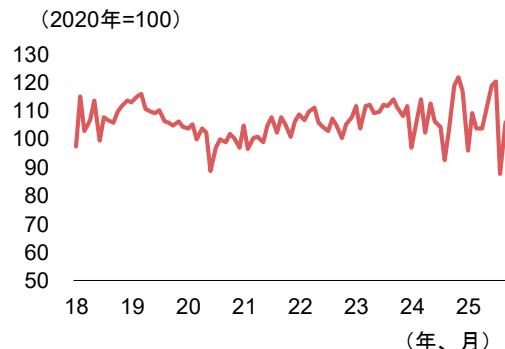
電子部品・デバイス



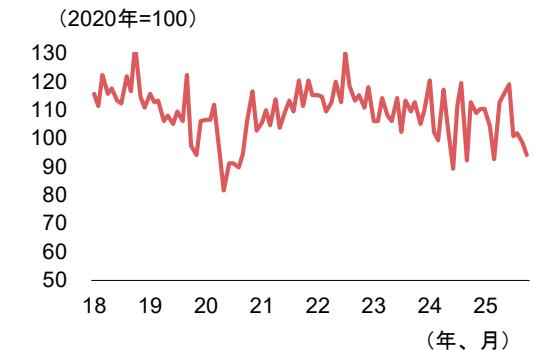
電気機械



化学



汎用・生産用・業務用機械

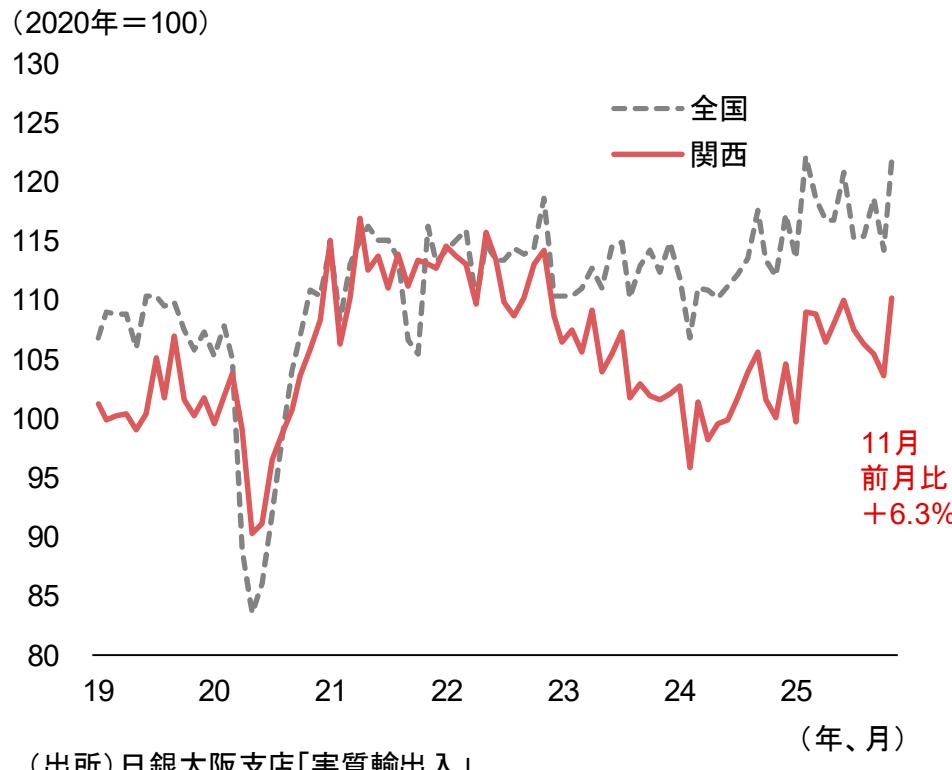


(出所) 経済産業省「鉱工業生産動向」

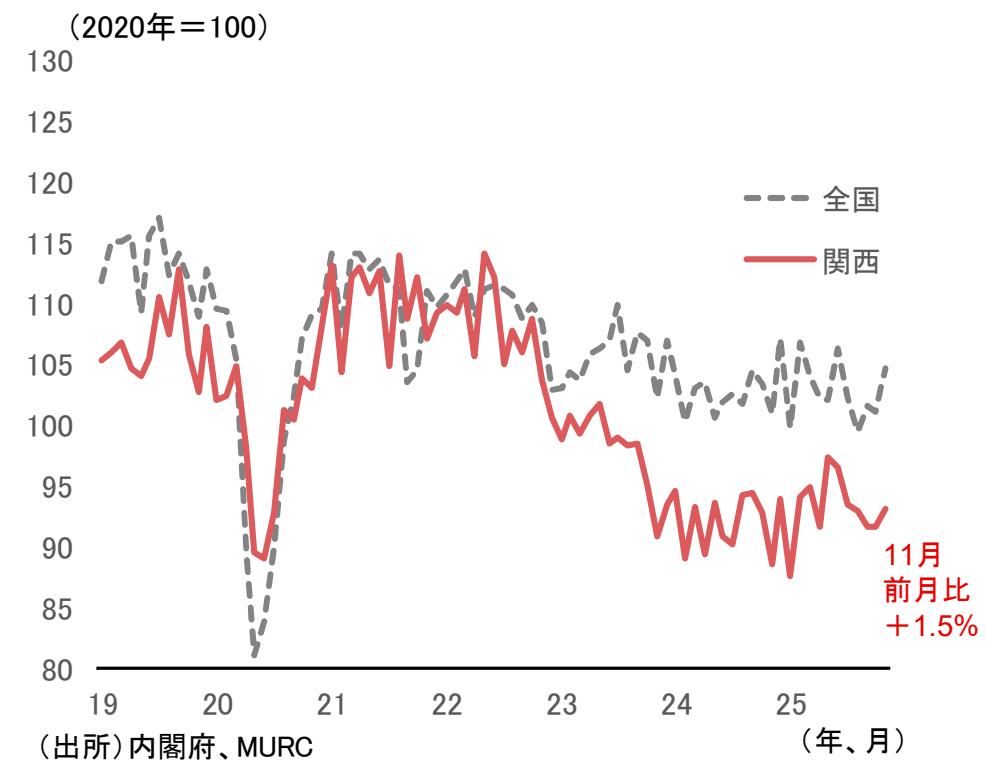
輸出

11月の実質輸出(季節調整値)は、前月比+6.3%の110.0と5カ月ぶりに増加した。均してみると横ばい圏で推移している。当社試算による11月の輸出数量(季節調整値)は2カ月連続で増加した。先行きについては、トランプ関税等の影響による海外景気の減速から下振れるリスクがある。

実質輸出指数(季節調整値)

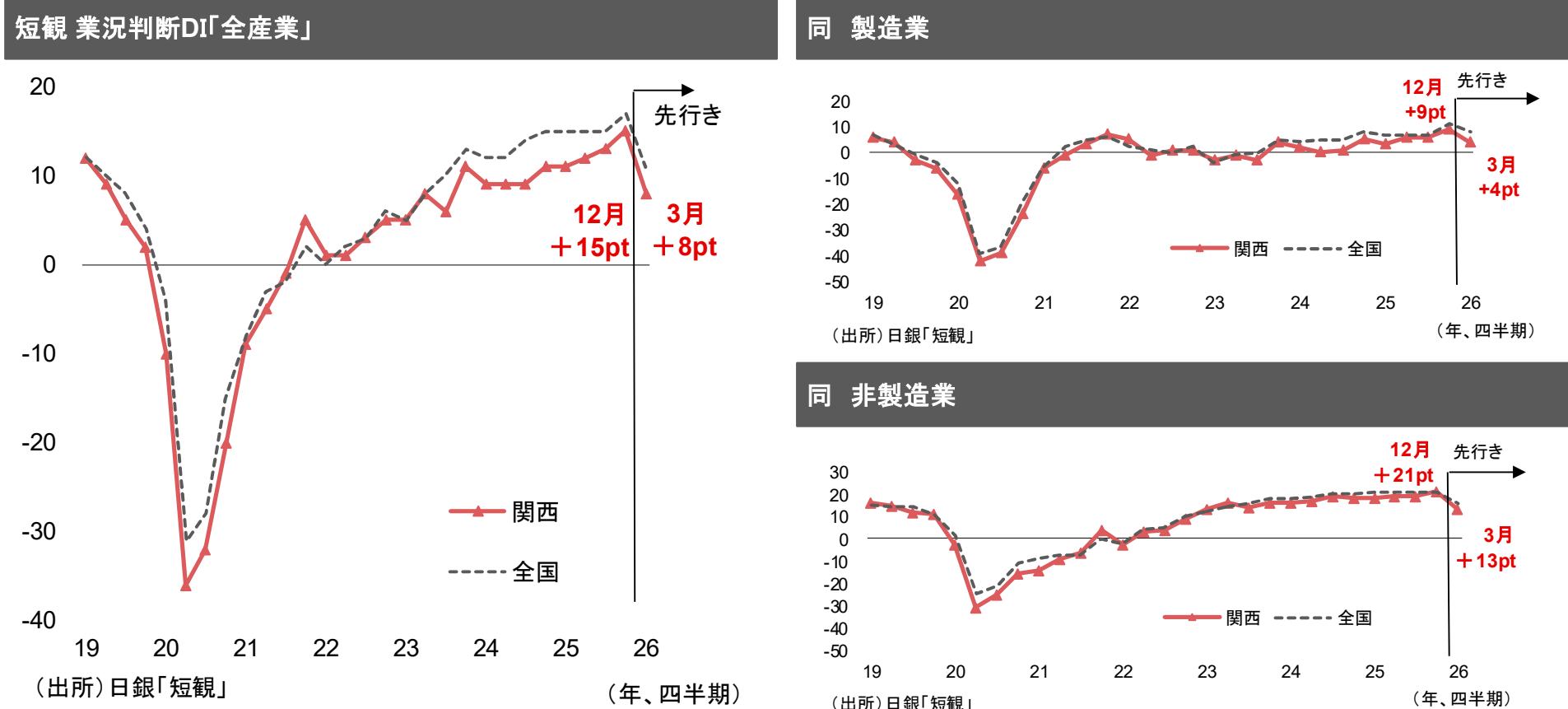


輸出数量指数(季節調整値)



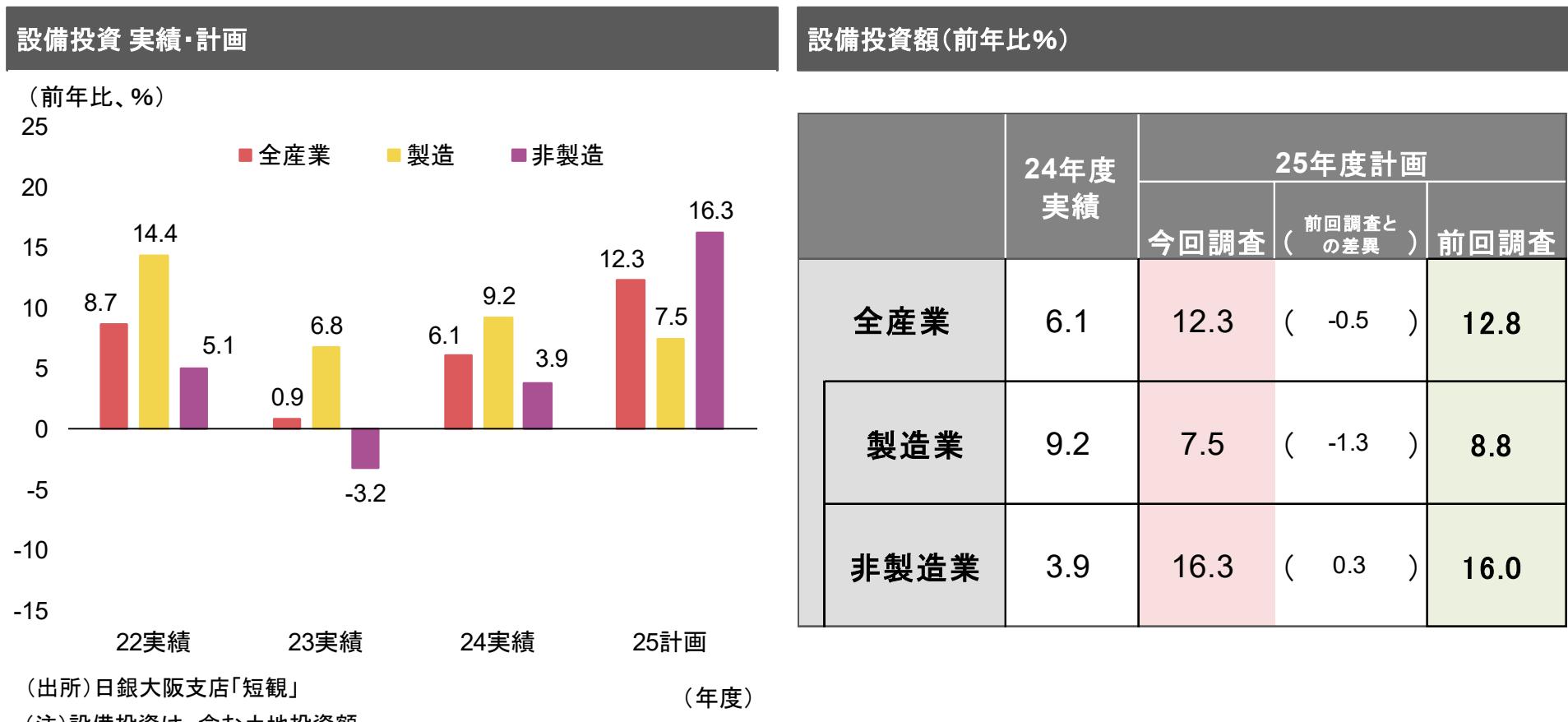
企業景況感(日銀短観)

日銀短観12月調査の業況判断DI(「良い」－「悪い」)は、全産業で+15ptと9月調査から改善。製造業は+9pt、非製造業は+21ptといずれも改善した。業種別に見ると、製造業では化学、非鉄金属、はん用・生産用・業務用機械などが上昇。非製造業は不動産、物品賃貸、宿泊・飲食サービスなどが上昇した。先行き(3月)については、製造業、非製造業ともに低下が見込まれている。



設備投資(日銀短観)

日銀短観12月調査によると、25年度の設備投資は全産業で+12.3%の計画となっており、企業の設備投資意欲は引き続き強い。業種別では、食料品、電気機械、輸送用機械、建設、対事業所サービス、宿泊・飲食サービスなどが前年比大幅増の計画となっている。

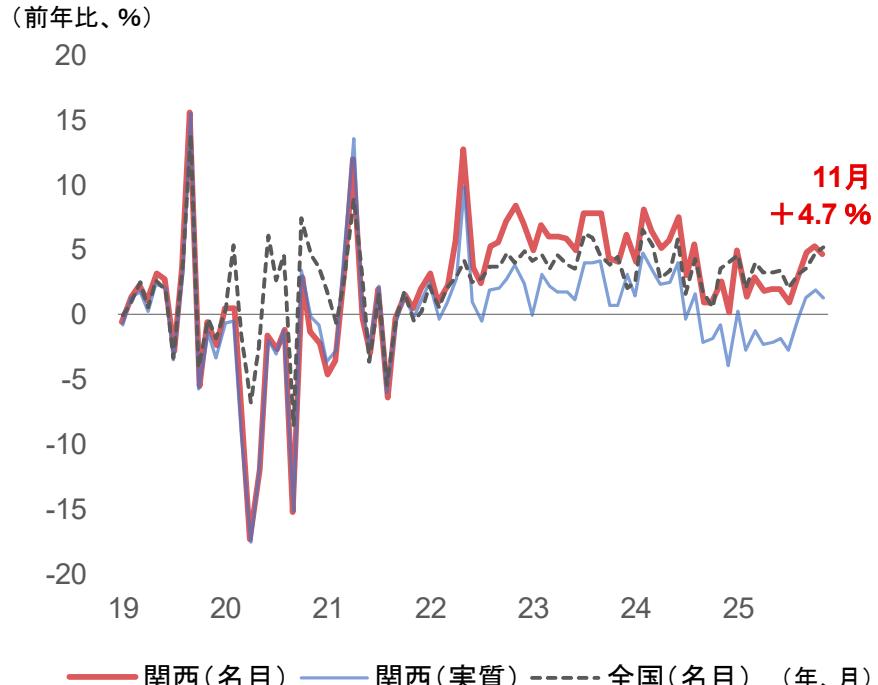


個人消費(小売売上、自動車販売)

11月の小売販売額(名目)は、前年比+4.7%と21年10月以降増加が続いている。実質値は前年比+1.4%と3カ月連続でプラスとなった。

11月の新車販売は、前年比-10.3%と5カ月連続で減少。小型車が増加したが、普通車、軽自動車が減少した。

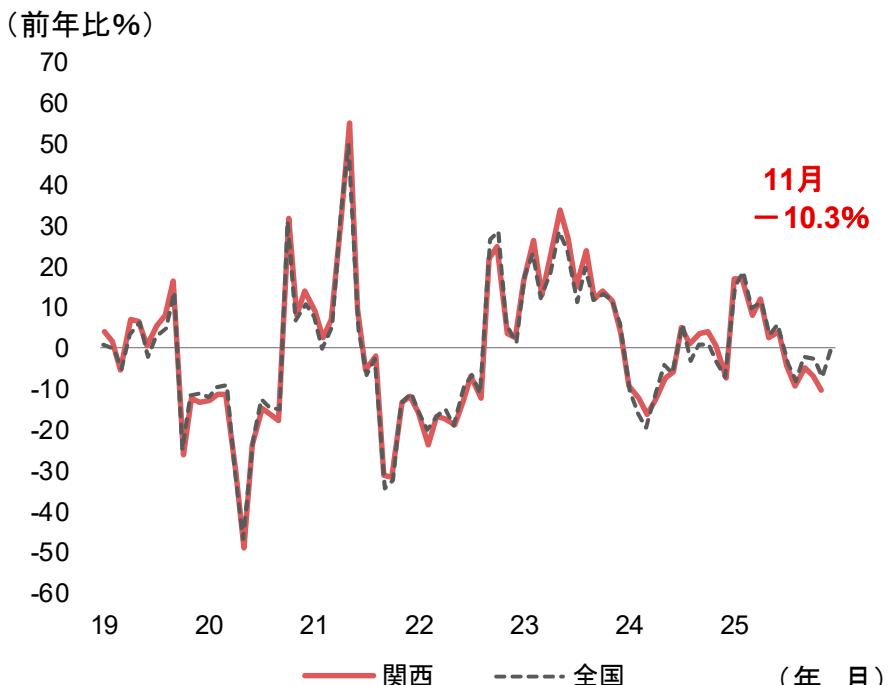
小売販売額(6業態計)



(出所) 経済産業省「商業動態統計」からMURC試算

(注)百貨店、スーパー、コンビニ、ドラッグストア、家電量販店、ホームセンターの合計
「持家の帰属家賃を除く総合(関西)」で実質化

新車販売台数(含む軽)

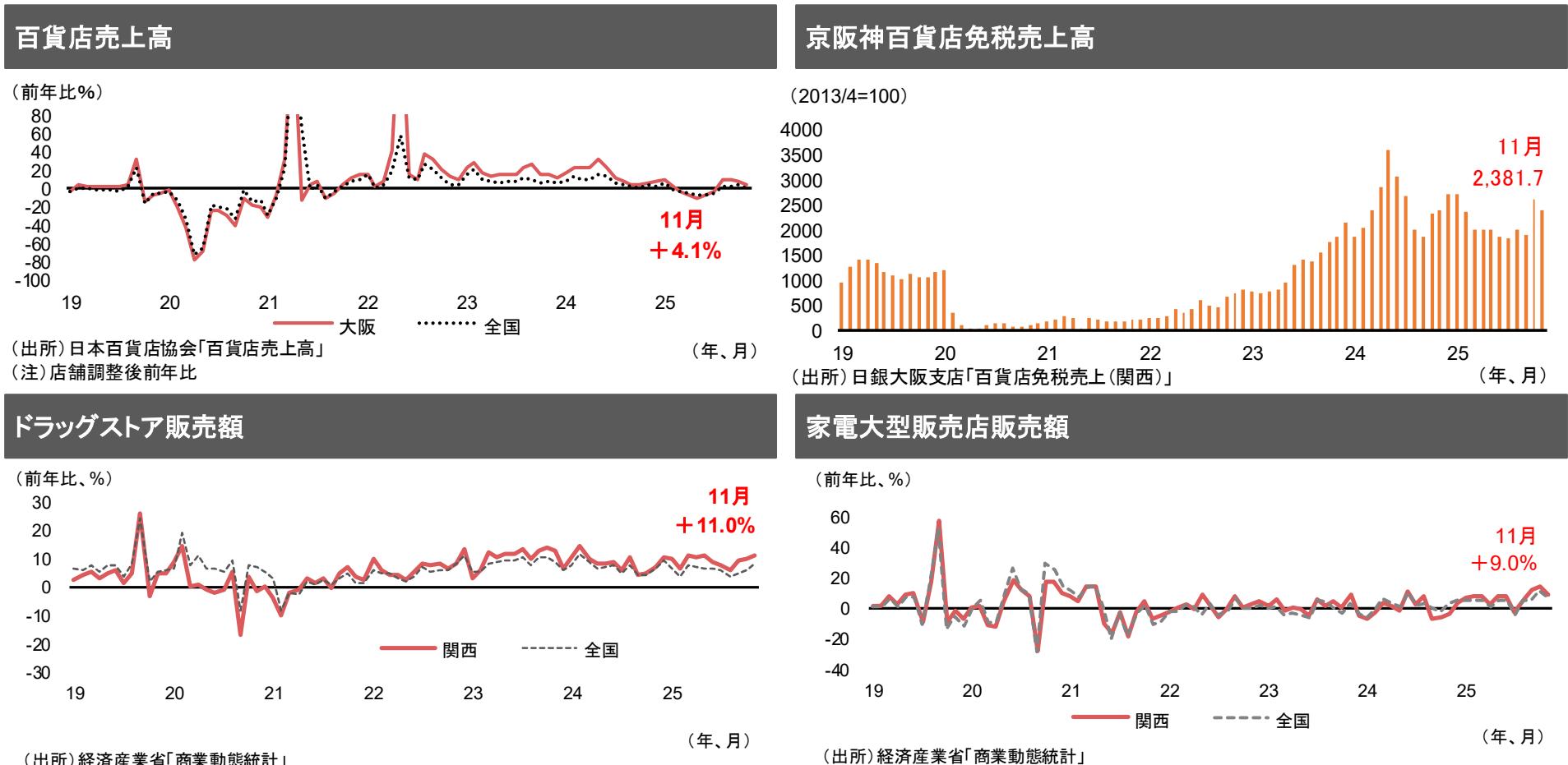


(出所) 日本自動車販売協会連合会「新車販売台数状況」

全国軽自動車協会連合会「軽四輪車新車販売」

個人消費(業態別)

11月の百貨店売上(大阪)は、前年比+4.1%と4ヶ月連続でプラスとなった。気温の低下で国内客向けの冬物衣料の販売が伸びたことなどが寄与した。京阪神百貨店免税売上指数は前年比-0.3%の2,381.7と4ヶ月ぶりにマイナスとなった。

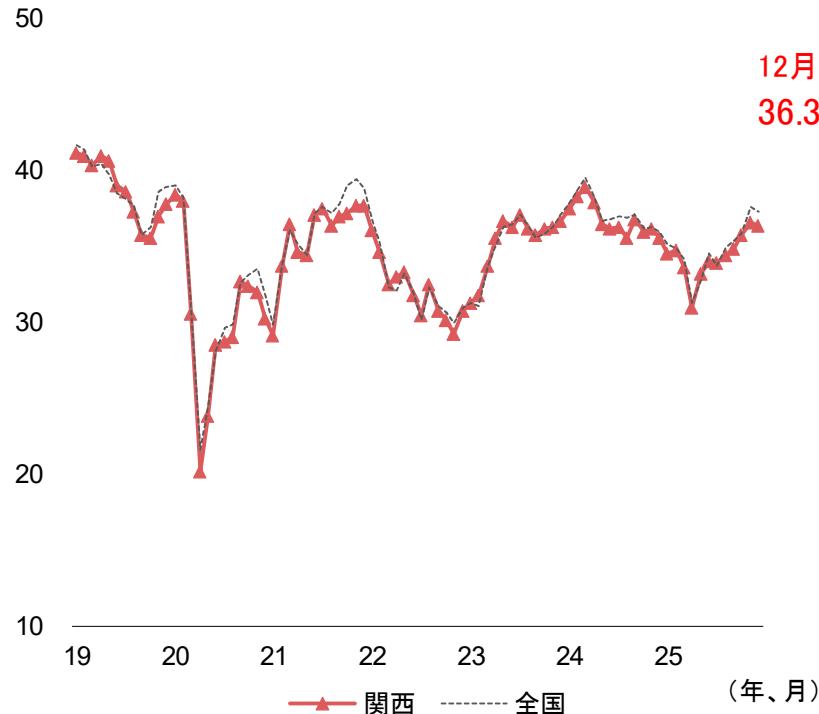


マインド・景況感

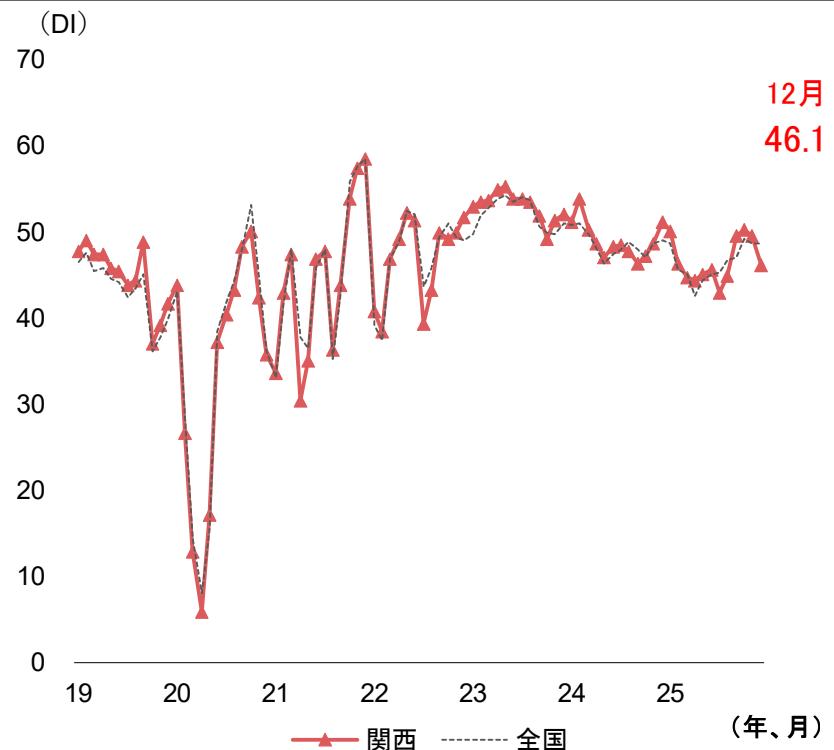
12月の消費者態度指数(季節調整値)は36.3と5ヶ月ぶりに低下した。

12月の景気ウォッチャー調査(現状判断DI、季節調整値)は前月差3.4pt低下の46.1となり、横ばいを示す50を2ヶ月連続で下回った。物価高による消費抑制、中国の渡航自粛によるインバウンド減などが指摘されている。

消費者態度指数



景気ウォッチャー調査(現状判断)



(注)関西の季節調整値はMURC試算
(出所)内閣府「消費動向調査」

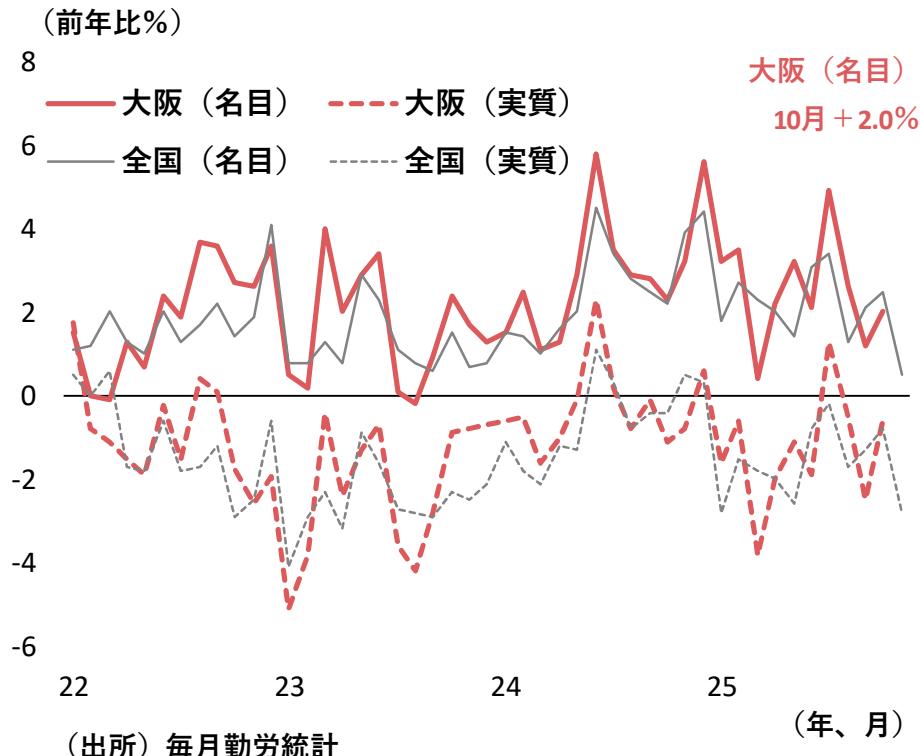
賃金・雇用

10月の大坂の賃金指数は、名目で前年比+2.0%と前年比プラスが続いている。実質では同一0.6%と3カ月連続でマイナスとなった。

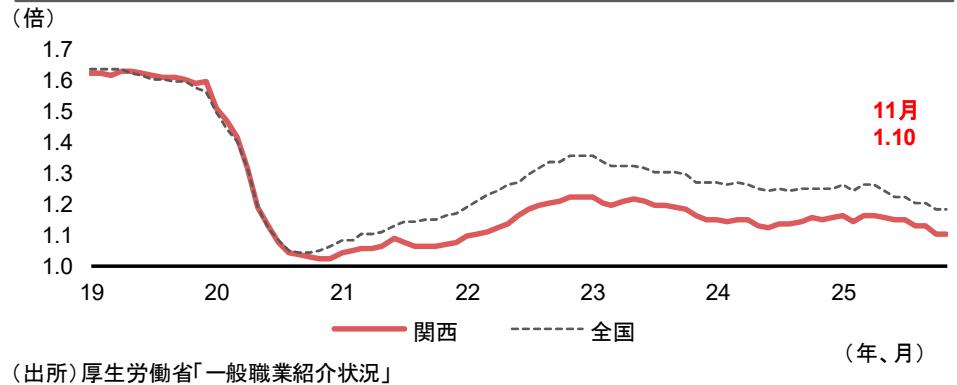
11月の関西の有効求人倍率は1.10倍と前月と同水準。求人倍率は全国と比べ低めで推移している。

25年7-9月期の失業率は2.7%と前期から0.1%pt上昇、就業者数は小幅減少した。

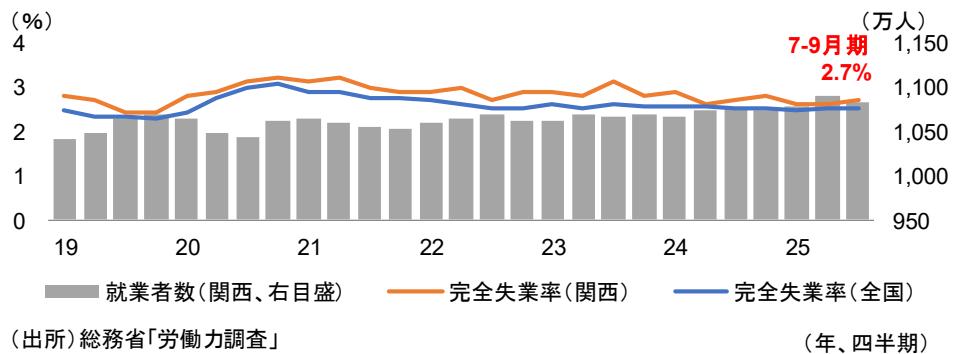
名目賃金指数



有効求人倍率(季節調整値)

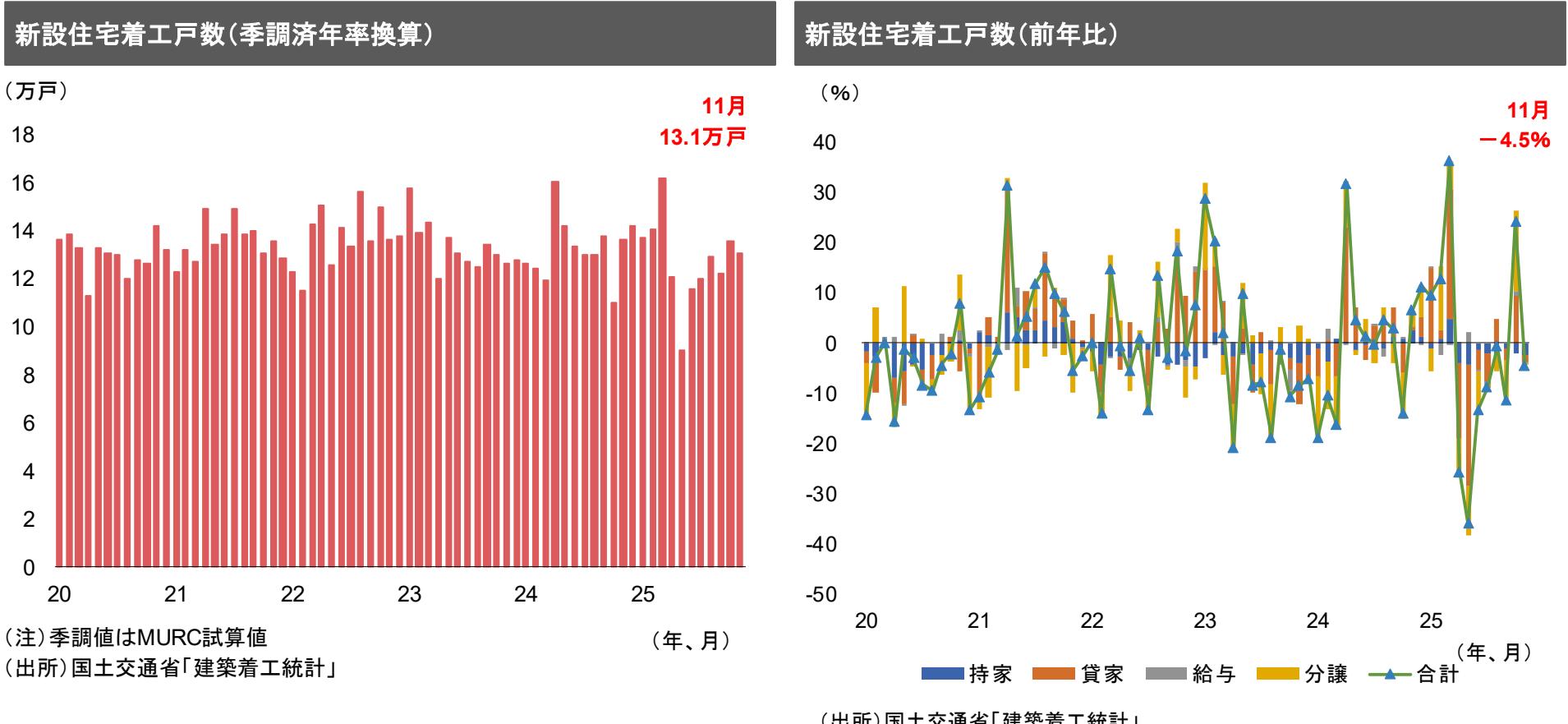


失業率と就業者数(季節調整値)



住宅投資

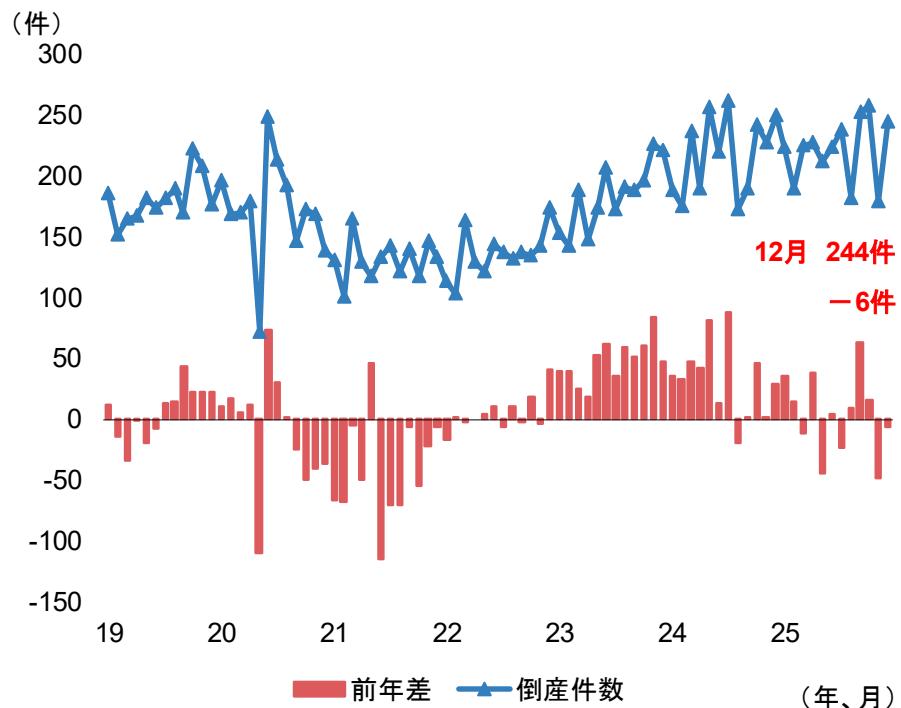
11月の住宅着工は、季調・年率13.1万戸と2ヶ月ぶりに減少した。昨年3月に省エネ基準への適合義務化等を前に全国で駆け込みが生じたことの反動減はおおむね解消し、このところ横ばい圏で推移している。前年比では-4.5%と減少。先行きは、季調・年率で横ばい圏での推移を見込む。



倒産

12月の倒産件数は244件と前年から6件減少。均してみると、おおむね横ばい圏で推移している。

倒産件数

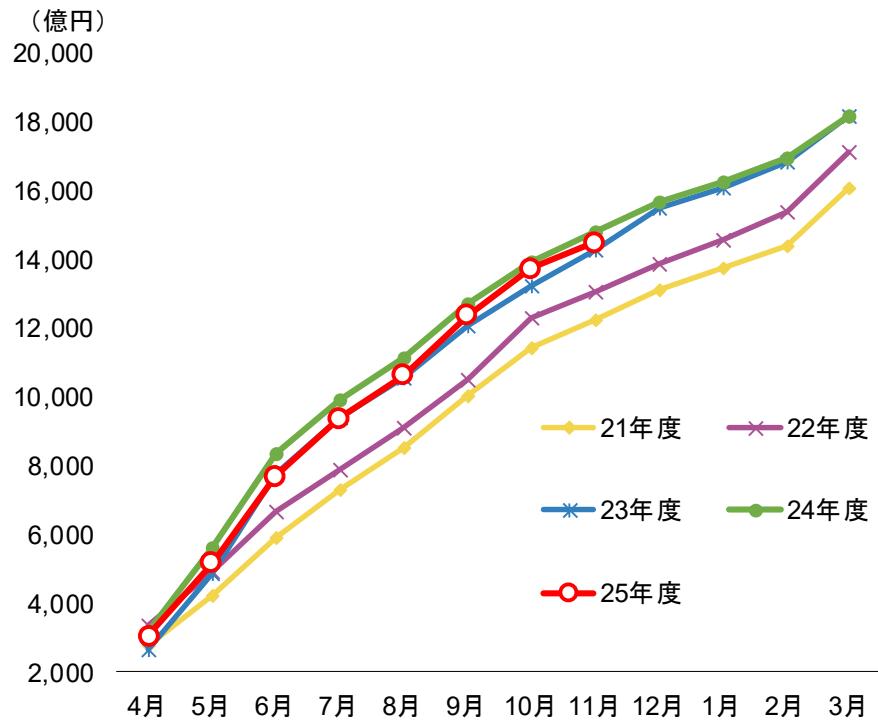


(出所)東京商エリサーチ「全国企業倒産状況」

公共投資

11月の公共工事請負金額(年度累計)は、前年比-2.2%の1兆4,450億円。おおむね例年並みの水準となっている。

公共工事請負金額(年度累計)



(出所)東日本建設業保証「公共工事前払金保証統計」

ご利用に際して

- 本資料は、執筆時点で信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、およびその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず、出所：三菱UFJリサーチ＆コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡ください。

(お問い合わせ)

調査・開発本部 調査部 塚田

TEL:03-6733-1626 E-mail:chosa-report@murc.jp

〒105-8501

東京都港区虎ノ門5-11-2 オランダヒルズ森タワー